様式2

都市再生整備計画　事後評価シート

新十津川町中心市街地地区

令和7年3月

北海道新十津川町

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	北海道	市町村名	新十津川町	地区名	新十津川町中心市街地地区			面積	24ha
交付期間	令和3年度～令和5年度	事後評価実施時期	令和6年度	交付対象事業費	315百万円	国費率	0.4		

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路（町道文京3号通り、町道文京2条中通り、町道文京1条通り（歩道造成））、公園（駅跡地さくら公園）、下水道（公共下水道）
	提案事業	－

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	－		
	提案事業	－		
新たに追加した事業	基幹事業	－		
	提案事業	地域創造支援事業（駅跡地さくら公園）	公園の効果を高めるため、JR札沼線及び新十津川駅跡地の歴史を継承していることを示す案内板等を整備する。	なし

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
当　初	令和3年度～令和5年度		
変　更	－		

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	道路環境の整備の満足度	%	60.0	R1	66.0	R6		60.5	△	あり なし	●	町道全体で見ると、今回整備した延長は短かく目標値には届かなかったが、主要施設への距離も短くなり利便性は向上しているので満足度も向上する見込み。	R7年5月
指標2	公園・緑地の整備の満足度	%	61.0	R1	67.1	R6		59.9	△	あり なし	●	アンケートはR6.3月に実施したが、公園の完成がR5.10月で、間もなく冬季閉鎖となったため、効果が反映されなかったが、R6.4月以降は、さまざまなイベントが開催されているため、満足度も向上する見込み。	R7年5月
指標3	新十津川町文京区内人口	人	101	R1	121	R6		316	○	あり なし		アクセス道路の整備や定住促進事業の相乗効果により、目標値を大きく上回る効果があった。	

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1	区域内移動距離の短縮	%	0	R1				32.9			線路を撤去し新たな道路が整備されたことにより、沿線住民にとって役場や学校、病院等への道路網が改善された。	
その他の数値指標2	イベント参加人数	人	0	R1				219			新たな公園が整備されたことに伴い、町内外の団体による小規模なイベントが開催されている。	
その他の数値指標3	－											

4）定性的な効果発現状況

鉄道敷地は鉄道林で鬱蒼としており、見通しが効かず地域の防犯上の懸念が多かったが、公園や宅地として整備されたことにより、見通しや景観も良くなり、地域の憩いの場として利用されている。

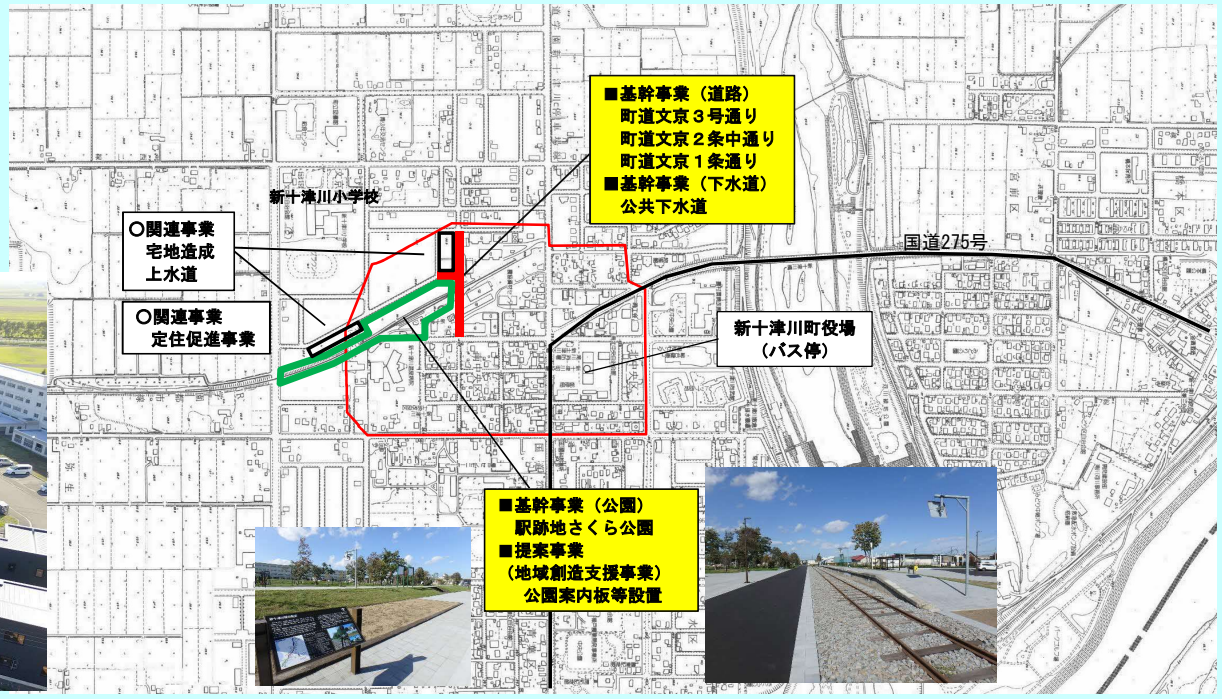
5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	－	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
官民連携による取組	－	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	－	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式２－２　地区の概要

新十津川町中心市街地地区（北海道新十津川町）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：みんなでつくる自然豊かで住みよいまちづくり 目標1：JR新十津川駅で分断されていた市街地の交通アクセス網の充実（生活環境の改善） 目標2：世代を超えた地域住民が集う、憩いの空間の創出（地域コミュニティの再生） 目標3：町内への定住促進の受け皿となる住みやすい住宅地を提供（人口減少の緩和）	道路環境の整備の満足度	単位：　%	60.0	R1	66.0	R6	60.5	R6
	公園・緑地の整備の満足度	単位：　%	61.0	R1	67.1	R6	59.9	R6
	新十津川町文京区内人口の増加	単位：　人	101	R1	121	R6	316	R6



まちの課題の変化	・線路や鉄道林を撤去し、生活道路や公園を整備したことにより、主要施設へのアクセスの改善と、安心安全な住環境の向上が図られた。 ・公園花壇の植栽活動やウォーキングイベントが行われるなど、地域交流の場としての効果が表れており、今後、植樹した桜並木の開花が見込まれることから、一層の来訪者の増加が予想される。。 ・鉄道の歴史を残したメモリアル公園としたことにより、町外からの来訪者も訪れる場となった。
今後のまちづくりの方策 （改善策を含む）	・年々新規性が低下し施設の経年劣化が進む中で、駅跡地さくら公園に地域住民が行ってみたいと思う環境を維持するため、残置したJR施設や遊具、花壇や植樹（桜）の管理をしっかり行い、景観と安全性の確保を行うことが必要である。 ・周辺の道路の交通量が増えていることから、公園利用者や周辺地域に対する交通安全対策を行う。また、道路の経年劣化に伴い、ポットホールや凹凸が発生することから、計画的な修繕を行い、地域の安心・安全な環境整備が必要である。